

今週も元気な活動を大追跡！

田中やすのり おっかけ放送局

TANAKA YASUNORI OKKAKE HOUSOU KYOKU

Vol.3



↑昨年6月に引き続き2回目の板橋区議会の壇上での一般質問の機会を頂きました。前回よりも堂々と質問時間を充分に使って、質のある質問を区長と教育長に投げかけました。



2/18
ON LIVE

**第一定例議会において
再び一般質問を行う！**
板橋区役所/本会議

板橋区健康づくり21計画に関連して、健康増進事業・介護予防事業の質問から開始。そして「命を守る」ための活動についての区への要望を突きつけました！

2008年の最初の議会である第一定例議会において、田中やすのり氏は一般質問を行い、坂本区長や北川教育長から答弁を受けました。今回の一般質問では、いきいき暮らす健康な街づくりに向けて「健康増進事業」と「介護予防事業」のさらなる進展に向けて、提言を中心に質問を繰り広げました。健康増進事業では、若者向けの自宅でできる簡易な検診サービスの導入を提言するとともに、今年4月の特定検診開始後も現在の基本健康診査の検診項目を継続検査できるように強く要望。また、介護予防事業では地域が協力して介護予防に取り組んでいくための仕組みを提言。さらに、命を守るために、自殺対策の充実や災害などの緊急時における対策の強化も要請しました。

田中やすのり氏は「今回の質問では、より前向きな答弁を引き出すことができました。板橋を変えていくための若干の手ごたえを感じることもできました。これからも板橋区を少しずつでも暮らしやすい街にしていけます」と一般質問終了後、熱く語りました。

※一般質問のより詳しい内容は次頁

行政視察

神奈川県鎌倉市の健康施策を視察！

The inspection of Kamakura city

**鎌倉市の先進的な
取り組みを会派で視察。
板橋で導入を提言へ！**

板橋区は現在35歳以上の国保加入者に対して健康診査を行っています。

しかし、鎌倉市は35歳未満の若い人たちに健康意識を高める目的で、自宅にしながら採血ができる簡易な健康診断サービスを実施しています。田中氏は、「板橋区でも類似サービス導入に向けて要望したい。次の一般質問がそのよい機会だ」と意気込みを語った。



ボランティア活動

生命のメッセージ展in早稲田に参加！

The Inochi no Message exhibition in Waseda

**命の重みと直面し、
命の大切さを改めて実感。
命のライブにも参加！**

早稲田大学で行われた生命のメッセージ展に参加。改めて理不尽な死をなくしていく決意を固めました。成増在住の友人ミュージシャンである杉山氏によるライブがエンディングを飾り、余韻溢れる中、幕を閉じた。



(上段) 犯罪被害者遺族の方と
(下段) ミニライブの様子

◇田中やすのりの一般質問（2008. 2. 18）ダイジェスト

介護予防・健康増進

Q:最近では平均寿命だけでなく、「健康寿命」といった概念も重視されている。健康寿命No.1を統一的な目標やスローガンなどに掲げ、健康寿命を伸ばす施策充実を？

A:区民の健康寿命の延命のために、生活習慣病予防事業、介護予防事業などを積極的に推進して参りたい。

Q:健康増進センターなどの様々な施設において行われている介護予防教室、健康体操、などの予防事業への参加人数拡大のための努力を求め。区の見解は？

A:生活機能の低下が見られる特定高齢者の予防事業への参加者数はまだ少ない。介護予防検診などの際に、医療機関でリーフレットを配布したり、医療機関と地域包括センターが連携するなど、普及啓発に努める。

Q:歯科医や医師などと連携して、区が行う介護予防事業へ参加を促す仕組みづくりが必要。区の見解は？

A:医療機関と地域包括支援センターが連携し、センターから個別に事業参加を進めていく。また、歯科医師会、薬剤師会などの各医療機関でポスター掲示も行う。

Q:鍼灸師による施術は介護予防だけでなく、介護事業にも有意義。はり・きゅう・マッサージ券の施策の拡充をすべき。区の見解は？

A:平成20年度には75歳以上の方が後期高齢者医療制度に移行するが、後期高齢者についても同様の施策を行う予定。広く区民全体への対象者拡大については来年度に研究を進めていきたい。

Q:特定健康診査の開始後も、従来の基本健康診査の検査項目が減ることのないようにしてほしい。区の見解は？

A:平成20年4月の特定健診開始後も一般施策による健診を特定健診と同時に受診することで、従来の基本健康診査で発見できた疾患を今までどおりチェックできるようにしていく。

Q:鎌倉市は若い世代に簡易な健康診査を実施している。指先からわずかに採血するだけの簡単な健診であるが、区においても実施できないか？

A:ご提案のありました鎌倉市のような郵送による簡易な健診については、その評価や実績の情報を収集しながら研究していきたい。

Q:区内で年間117人の自殺者、推計で1170人の自殺未遂者が存在することは見過ごせない状況と考える。今後の姿勢についての区の見解は？

A:毎年100人を超える方が自殺によって命を落としている事実は大変重大。減少に向けて積極的な努力が必要であると認識しています。

Q:自殺者の多くは死の直前にうつ病などの精神疾患を発症していることが多いが、専門家にほとんど相談していない。周りにいる人が専門家への相談や区との取り組みへの参加を強く促す仕組みづくりが必要。区の見解は？

A:いたばしNo.1プランの取り組みであります、こころの健康サポーター養成を進め、身近な理解、支援の場を広げていく。また、うつ等の問題を抱える方には、さまざまな機会を捉えて、気軽にできるストレスチェックリストを周知するなど、普及啓発を行っていく。

Q:祭りや展示会などの多くの人が集まる会場にAEDを無料で貸し出しできないか？また、消防と連携してAEDの使い方の普及をより図ることはできないか？

A:AEDを多くの区民が集まるイベント等に無料で貸し出しできるように配慮していきたい。今後、より多くの区民がAEDを含めた応急手当ができるように努めていきたい。

Q:要援護者の名簿を消防本部や民生委員などに配布しただけでは、機能不全を起こす。要援護者を事前に巡回するなどの活動をサポートしてほしいが、区の見解は？

A:区からの名簿配布の機会に支援組織が要援護者本人と面談する必要性を説明しているが、今後とも地域の中で具体的に対策が進展するように努めてまいりたい。

Q:総合防災訓練は夏の炎天下での訓練になることが多く、もっと訓練に適した時期での実施を要望する。また、避難場所まで実際に避難をシミュレーションする訓練や区内小中学校などの避難所での宿泊を伴う避難体験訓練を実施してみることも提言する。区の見解は？

A:実施日について様々な地域行事などの日程調整が困難であった。但し、訓練時間の繰上げや十分な水分補給、日陰を多く利用した訓練の実施など、参加者の健康に配慮していきたい。また、大震災に備えて的確に対応していくために、より実践的な訓練となるような内容充実に向けて、引き続き検討してまいりたい。

Q:成増3丁目22番付近は豪雨時に赤塚二中がある高台から大量の雨水が流れ込み、既に何度も浸水の被害が発生している。赤塚二中の地下に雨水を貯留できる設備設置を要望する。

A:赤塚二中への雨水貯留槽設置の必要性は認識しているところですので、今後、対応方法を検討していきたい。

Q:成増・下赤塚駅は慢性的に放置自転車が溢れている。特に成増駅では目の不自由な方の誘導用ブロックを自転車が塞いでしまうという事態も発生しており、事態の改善を求め。

A:自転車のガードマンを、成増・下赤塚駅に来年度から新たに土日配置するなど、体制を強化していきたい。

Q:西高島平駅周辺のポイ捨て防止対策について、路上禁煙地区のような積極的な対策と対応により、事態の改善を求め。

A:駅頭において喫煙マナーアップキャンペーンに取り組む。また、ストップ歩行禁煙を標示した路面シートの貼付によって意識啓発を図っていきたい。

命を守る

地域課題